

<小学算数> ★…新規内容 ※使用している図などは「小学校学習指導要領 算数編」から引用

ポイント①：「速さ」の単元が6年→5年へ

移行内容の中でも大きな変更点である。2019年度は5・6年生ともに学習。

●「分数×(÷)整数」が2019年度は5年から省略、2020年度から5年→6年に移行することで、2019年度から、時速→分速などの単位変換が必要な問題では、分数が使えなくなる！

問題例①) 時速900kmで飛ぶ飛行機は、1時間15分間に何km進むか？

従来の解答例) 1時間15分 = $1\frac{15}{60}$ 時間 = $1\frac{1}{4}$ 時間だから、 $900 \times 1\frac{1}{4} = 1125$ (km)

2019年度以降) 15分 ÷ 60分 = 0.25時間だから、1時間15分 = $1 + 0.25 = 1.25$ 時間
 $900 \times 1.25 = 1125$ (km)

問題例②) 分速9kmで走るリアモーターカーは、3km進むのに何秒かかるか？

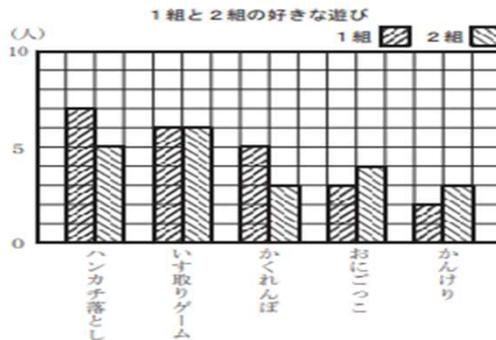
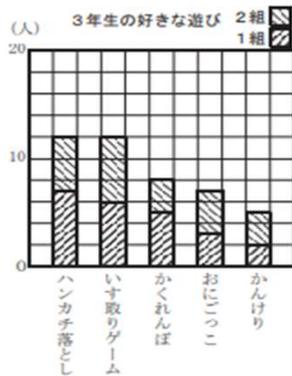
従来の解答例) $3 \div 9 = \frac{1}{3}$ 分だから、 $60 \times \frac{1}{3} = 20$ (秒)

2019年度以降) 9km → 9000mだから、分速9000m ÷ 60 = 秒速150m
 3km → 3000mだから、 $3000 \div 150 = 20$ (秒)

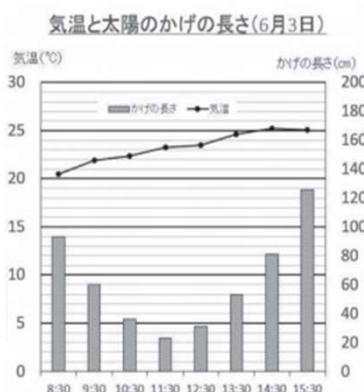
ポイント②：統計的な問題の充実 (グラフ例は下図を参照)

複数の同じグラフを組み合わせたたり、複数の形の異なるグラフを組み合わせたグラフの取り扱いが追加された。各学年で学習するグラフの種類は決まっているが、前学年までの既習のグラフを合わせて使用することもある。

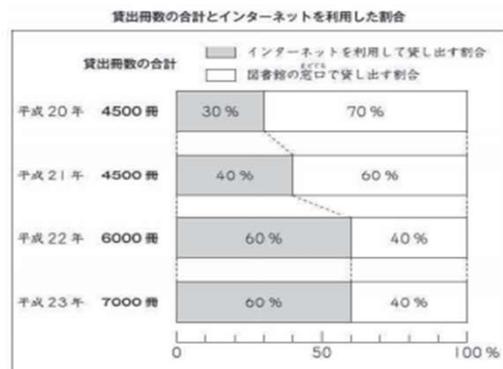
●3年: 複数の棒グラフを組み合わせたグラフ (左下図: 上下に組み合わせたグラフ、右下図: 左右に並べたグラフ)



●4年: 2種類の異なるグラフを組み合わせたグラフ

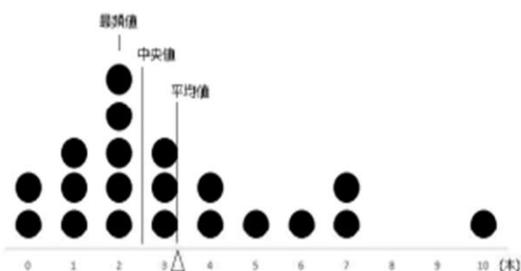


●5年: 複数の帯グラフを組み合わせたグラフ



- 6年: データの散らばりの様子や代表値の意味を視覚的に捉えやすくするグラフ(図1)
データの分布の様子や特徴、傾向を捉える表とグラフ(図2・図3)

空き缶拾いの缶の数

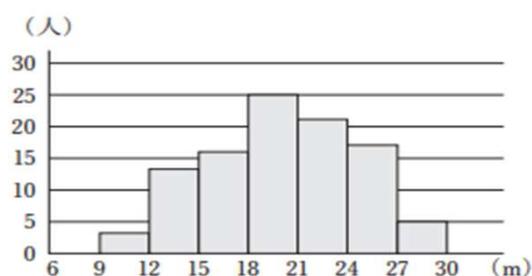


←【図1】

★ドットプロット
数直線上の該当する箇所にデータを配置し、同じデータがある場合には積み上げて表したものを。
→データの散らばりが視覚的に捉えやすくなる。

待ち時間(分間)	度数
以上 未満	
0 ~ 10	3
10 ~ 20	4
20 ~ 30	6
30 ~ 40	18
40 ~ 50	10
50 ~ 60	3
60 ~ 70	1
合計	45

↑【図2】



↑【図3】

★度数分布を表す表
分布の様子を数的に捉えやすくするために、数量を幾つかの区間(階級という)に分けて、各区間に含まれる数(度数という)を対応させた表のこと

★柱状グラフ
各階級の幅を横とし、度数を縦とする長方形をかいたもの。中学校では「ヒストグラム」とも呼び、さらに深く学ぶ

ポイント③: 主な移行・追加内容

移行先の学年	移行時期	移行・追加内容	現行で習う学年
3年	2018年度～	メートル法の単位の仕組み(k(キロ)、m(ミリ)などの接頭語について)	6年
4年		メートル法の単位の仕組み(長さとの面積の単位の関係について)	
5年	2019年度～	メートル法の単位の仕組み(長さとの体積の単位の関係について)	
6年	2020年度～	速さ	5年
		※分数×整数、分数÷整数	中1
代表値(平均値、中央値、最頻値、階級)			
中1		★ドットプロット	
		素数	5年

※「分数×整数、分数÷整数」は、2019年度では5・6年ともに扱わない。

ポイント④: 移行内容のほかに新設される内容

- (1) 3年「数の表し方」と5年「整数、小数の記数法」→10倍、100倍…などの大きさのほかに**1000倍**が追加(2020年度～)
- (2) 4年「小数の仕組みとその計算」→**小数を用いた倍**が追加…例①(2019年度～)
「C 変化と関係」に「**簡単な場合についての割合**」が追加…例②(2019年度～)

例①: 「10cmは4cmを1としたとき、ちょうど2.5に当たる」といい、これを2.5倍の意味として指導する。

例②: 簡単な場合とは基準とする数量を1とみたとき、もう一方の数量が2倍、3倍、4倍などの整数で表される程度